

石川 純治 先生 略歴／研究業績一覧

略 歴

1948年8月20日生まれ

学歴

1974年 3月 大阪市立大学商学部卒業
 1977年 3月 大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了
 1981年 3月 大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学

学位

博士(経済学) 大阪大学、1993年
 博士(商学) 慶應義塾大学、2001年

職歴

1974年10月 公認会計士第2次試験合格、会計士監査業務に携わる(～1981年3月)
 1981年 4月 福岡大学商学部専任講師
 1983年 4月 同助教授
 1985年10月 大阪市立大学商学部助教授
 1990年10月 同教授
 2003年 4月～ 駒澤大学経済学部教授、大阪市立大学名誉教授
 2007年～2016年 放送大学客員教授

非常勤講師(年度省略):九州大学(大学院)、鹿児島大学、帝塚山学院大学、甲南大学、沖縄国際大学、琉球大学(学部・大学院)、静岡県立大学(学部・大学院)、立教大学、早稲田大学、クイーンズランド工科大学(客員教授) ほか

その他

国家試験委員:公認会計士第2次試験委員(2000年～2002年)、税理士試験委員(2005年～2007年)
 大学入試センター試験委員:教科科目第一委員会簿記・会計部会(副部会長、部会長、2004年4月～2006年3月)、同第二委員会簿記・会計部会(部会長、2009年9月～2013年8月)

研究業績

著書

- 『情報評価の基礎理論』中央経済社、1989年。
- 『経営情報と簿記システム－簿記の伝統と革新』森山書店、1999年、(4訂版)2004年。
(肖序訳／中国語版、立信会計出版社、上海、2000年)
- 『時価会計の基本問題－金融・証券経済の会計』中央経済社、2000年。
- 『キャッシュ・フロー簿記会計論－構造と形態』森山書店、1996年、(3訂版)2005年。
- 『変わる社会、変わる会計－激動の時代を読む』日本評論社、2006年。
- 『現代の会計』(齋藤正章氏と共著)放送大学教育振興会、2008年。
- 『変貌する現代会計－その形と方向』日本評論社、2008年。
- 『変わる会計、変わる日本経済－「情報会計」の時代』日本評論社、2010年。
- 『複式簿記のサイエンス－簿記とは何であり、何でありうるか』税務経理協会、2011年、(増補改定版)2015年。
- 『新訂 社会のなかの会計』(齋藤正章氏と共著)放送大学教育振興会、2012年。
- 『揺れる現代会計－ハイブリッド構造とその矛盾』日本評論社、2014年。
- 『基礎学問としての会計学－構造・歴史・方法』中央経済社、2018年。

翻訳書

- R.W. スケイペンス『管理会計の回顧と展望』(監訳)白桃書房、1992年。
- B. ライアン他『会計学・財務論の研究方法』(共訳)同文館出版、1995年。

論文

- 「会計測定の公理的構造」『大阪大学経済学』第27巻第4号、1978年3月。
- 「歴史的元原主義の公理的構造」『大阪大学経経済学』第28巻第1号、1978年6月。
- 「L.P. モデルによる間接費の配賦方法」『大阪大学経経済学』第28巻第4号、1979年3月。
- 「データベース・システムによる会計情報システムの設計(Ⅰ)(Ⅱ)」『大阪大学経済学』第29巻第2号、第3・4号、1980年1月、3月。
- 「間接費配賦の数理モデル」『大阪大学経経済学』第30巻第4号、1981年3月。
- 「井尻理論における方法と対象」『會計』第119巻第4号、1981年4月。
- 「合理的選択と間接費の配賦」『会計および会計管理の研究』(木内佳市先生還暦記念論集)所収、同文館出版、1982年。
- 「会計の事象・関連モデル－データモデル論と会計－」『福岡大学商学論叢』第26巻第3・4号、1982年3月。
- 「事象会計と複式原理」『福岡大学商学論叢』第27巻第1・2号、1982年11月。
- 「構造としての会計科学」『福岡大学商学論叢』第27巻第4号、1983年3月。
- 「3式簿記のロジック(Ⅰ)(Ⅱ)」『福岡大学商学論叢』第28巻第2号、第4号、1983年10月、1984年3月。
- 「3式簿記研究の一視点」『企業会計』第36巻第9号、1984年8月。
- 「利益計画と製造間接費の配賦」『福岡大学商学論叢』第29巻第2・3号、1984年11月。

- 「不確実性における情報の価値」『福岡大学商学論叢』第29巻第4号、1985年3月。
- 「準不確実における情報の価値(上)(下)」『福岡大学商学論叢』第30巻第1号、第2号、1985年6月、9月。
- 「機会損失と不確実性のコスト(上)(下)」『経営研究』(大阪市立大学)第36巻第5・6号合併号、第37巻第1号、1986年1月、4月。
- 「情報システムとシグナルの価値(I)」『福岡大学商学論叢』第30巻第3・4号、1986年3月、「情報システムとシグナルの価値(II)(III)」『経営研究』第37巻第4号、第37巻第1号、第5・6号合併号、1986年11月、1987年1月。
- 「情報価値の基礎考察」『経営研究』第38巻第1号、1987年4月。
- 「情報価値の意思決定論的基礎考察(一)(二・完)」『會計』第131巻第6号、第132巻第2号、1987年6月、8月。
- 「覚書 情報入手のタイミングと情報の動的価値」『経営研究』第38巻第4号、1987年10月。
- 「不確実性の共有と分散-共同誘因とリスク配分」『経営研究』第38巻第5号、1987年12月。
- 「不確実性・情報・決定の評価に関する覚書」『経営研究』第39巻第1号、1988年4月。
- 「不確実性評価の基礎(上)(下)」『企業会計』第40巻第10号、第11号、1988年10月、11月。
- 「利速会計とは何か」『會計』第138巻第4号、1990年10月。
- 「原価主義会計の構造と形態」『経営研究』第42巻第5・6号、1992年1月。
- 「試算表等式論覚書(1)(2)」『経営研究』第43巻第5・6号、第44巻第1号、1993年1月、5月。
- 「損益計算とキャッシュ・フロー計算の簿記構造(1)(2)」『會計』第144巻第5号、第6号、1993年11月、12月。
- 「原価・時価論争と資本循環シェーマー異質な資本運動と会計評価問題-」『経営研究』第46巻第2号、1995年8月。
- 「財産法・損益法と複式簿記」服部俊治・藤田昌也編『会計構造の諸問題』第4章所収、九州大学出版会、1995年。
- 「キャッシュ・フロー計算と複式仕訳」『経営研究』第46巻第3号、1995年11月。
- 『理論と実務の乖離』をめぐる論争』『企業会計』第47巻第12号、1995年12月。
- 「キャッシュ・フロー計算の展開表とギャップ分析」『JICPA ジャーナル』第8巻第3号、1996年2月。
- 「損益計算とキャッシュ・フロー計算の動的統合モデル-簿記的結合と会計的統合-」『経営研究』第47巻第1号、1996年6月。
- 「企業会計システムの簿記論的基礎とその展開」『経営研究』第47巻第2号、1996年7月。
- 「キャッシュフローの動態分析に関する覚書」『経営研究』第47巻第3号、1996年11月。
- 「時価会計と損益計算-包括利益計算書を中心にして-」『経営研究』第48巻第1号、1997年5月。
- 「時価会計と“第2の”損益計算書構想-その意義と問題点-」『JICPA ジャーナル』No.507、第9巻第10号、1997年9月。
- 「利益の『リサイクル』とは何か-純利益とその他の包括利益の関係を中心にして-」『経営研究』第48巻第3号、1997年11月。
- 「時価会計の基本問題」『会計理論学会年報』第12号、1998年9月。
- 「キャッシュフロー計算の複式簿記-基本財務表の要件によせて-」『會計』第153巻第1号、1998年1月。
- 「金融商品に適用される資本維持概念について-その意義と問題点-」『産業経理』第57巻第4号、1998年1月。
- 「キャッシュフロー革命と複式簿記」『日本簿記学会年報No.13』、1998年9月。

- 「時価会計の基本問題－金融経済の会計学－」『会計理論学会年報No.12』、1998年10月。
- 「キャッシュフロー計算書の基本構造」『税経セミナー臨時増刊』、1999年1月。
- 「原価主義会計とは何だったのか－財務業績報告の多元化のなかで－」『経営研究』第49巻第4号、1999年2月。
- 「金融商品の時価評価と財務諸表論－その位置と再構成可能性－」『産業経理』第59巻第2号、1999年7月。
- 「金融商品の時価評価の論拠を巡って(上)(中)(下)－その学説論的吟味－」、『経営研究』第50巻第1・2号、第3号、第4号、1999年7月、11月、2000年2月。
- 「時価会計の経済的基礎－金融・証券経済の会計問題－」『企業会計』第51巻第12号、1999年11月。
- 「減損会計と利益計算の構造」『企業会計』第53巻第11号、2001年10月。
- 「複式簿記システムについて」(共著)『経済研究』(琉球大学法文学部)第62号、2001年9月。
- 「時価会計と資本利益計算の変容(上)(下)－社会科学としての時価会計－」『経営研究』第53巻第2号、第3号、2002年7月、11月。
- 「割引現在価値と会計配分－資産化と利子配分－」『経営研究』第53巻第3号、2002年11月。
- 「時価会計と資本利益計算の変容」『会計理論学会年報No.16』、2002年9月。
- 「金融商品会計の理論的基礎」『企業会計』第54巻第12号、2002年11月。
- 「企業会計のハイブリッド構造」『會計』第163巻第1号、2002年12月。
- 「利益の概念と情報価値 ディスカッション・IXa」斎藤静樹編著『会計基準の基礎概念』所収、中央経済社、2002年11月。
- 「資産化と利子配分」『会計理論学会年報No.17』、2003年4月。
- 「手続校正、予測分離、そして複式簿記」『企業会計』第55巻第10号、2003年9月。
- 「年金会計の計算構造と企業会計の今日的変容」『駒澤大学経済学部研究紀要』第59号、2004年3月。
- 「企業会計の今日的変容」『三田商学研究』第47巻第1号、2004年4月。
- 「時価会計導入は日本経済を弱体化させるか」『経済セミナー』2004年5月号。
- 「企業会計の変容と企業会計原則の今日的課題」『會計』第166巻第3号・4号、2004年8月・9月。
- 「現代企業会計の全体的あり方－『配分』と『評価』の関係性を巡って－」『経済学論集』(駒澤大学)第36巻第1号、2004年8月。
- 「年金会計と業績報告のハイブリッド構造」『会計理論学会年報No.18』、2004年9月。
- 「企業会計の今日的変容と全体整合性問題」『會計』第167巻第1号、2005年1月。
- 「社会のなかの会計－会計ビッグバンの政治経済学－」『駒澤大学経済学部研究紀要』第60号、2005年3月。
- 「討議資料『財務会計の概念フレームワーク』の苦心と本音」『企業会計』第57巻第7号、2005年7月。
- 「日本版概念フレームワークの立脚点－4つの基礎論的視点から－」『経済学論集』第37巻第2・3・4合併号、2006年3月。
- 「日本版概念フレームワークの意義と論点」『会計理論学会年報No.20』、2006年9月。
- 「資金計算書の歴史的展開と数学的展開－その照応関係の一視点－」『経済学論集』第38巻第4号、2007年3月。
- 「後入先出法はなぜ廃止か－ストック重視思考の一環として－」『企業会計』2009年1月号。
- 「続 社会のなかの会計－『会計時評』事始め－」『駒澤大学経済学部研究紀要』第64号、2009年3月。
- 「企業会計の変容をどう見る」『会計理論学会年報No.24』、2010年9月。
- 「社会科学としての時価会計」『経済集志』(日本大学)81巻第3号、2011年10月。

- 「資金計算書発展の論理構造」安藤英義・古賀智敏・田中健二責任編集『企業会計と法制度』第7章所収、中央経済社、2011年。
- 「複式簿記の相対化ーより原理的なものへー」『税経通信』2012年1月号。
- 「『金融・開示・取引法』優位の現代会計ー経済・会計・法の総体的視点」『企業会計』第64巻第2号、2012年2月。
- 「複式簿記の見方・考え方・教え方(上)(下)ー理論・歴史・教育の接合ー」『経済学論集』第44巻第1号、2号、2012年9月、12月。
- 「『計算のフレームワーク』と『情報のフレームワーク』」『週刊経営財務』2012年12月3日号。
- 「情報開示、利益計算、包括利益(I)ー貸借対照表の現代的変容ー」『経済学論集』第45巻第1号、2013年9月。
- 「情報開示、利益計算、包括利益(II)ー『その他の包括利益』の出所と現代会計ー」『経済学論集』第45巻第2号、2013年12月。
- 「会計研究のあり方ープロフェッションとアカデミズムー」『経理研究』(中央大学経理研究所)第57号、2014年3月。
- 「情報開示、利益計算、包括利益ー『その他の包括利益』の出所と現代会計」『会計理論学会年報No.28』、2014年9月。
- 「構造と歴史ー会計史研究の一視点ー」『会計史学会年報第33号』、2015年。
- 「純損益、包括利益、OCIの論点」『週刊経営財務』2015年2月2日号。
- 「経済世相と現代会計」『週刊経営財務』2015年6月29日号。
- 「アクルーアルと『利益の質』」『週刊経営財務』2015年8月31日。
- 「『事業活動の性質』と純損益／包括利益」『週刊経営財務』2015年10月19日号。
- 「『事業活動の性質』と資産分類／測定基礎」『週刊経営財務』2015年12月14日号。
- 「会計ビッグバンから『東京合意』へ」『企業会計』2016年1月号。
- 「東芝の債務超過回避と巨額子会社売却益ー巧妙な買収スキームは何のため」『週刊経営財務』2016年6月6日号。
- 「資産除去債務と減価償却ー何が矛盾か、その出所はー」『週刊経営財務』2016年8月8日号。
- 「大世界史のなかのIFRSー新自由主義とIFRS」『週刊経営財務』2016年10月17日号。
- 「OCI現象と現代会計」『会計理論学会年報No.30』、2016年9月。
- 「資産除去債務と減価償却」『会計理論学会年報No.31』、2017年9月。
- 「事業活動の性質と純損益・包括利益」辻山栄子編著『財務会計の理論と制度』第2章所収、中央経済社、2018年。
- 「PL脳は病なのかーファイナンス思考と会計」『週刊経営財務』2018年12月24日号。
- “A Theoretical Framework for Multiattribute Accounting”(with Yoshiaki Jinnai), 『福岡大学商学論叢』第27巻第3号、1983年2月。
- “A Decision Theoretical Inquiry into the Value of Information Systems”, *Osaka City University Business Review*, No.1, 1987.
- “The Cost of Choice and the Value of Information (1)(2)”, 『経営研究』第41巻第1・2号、第3号、1990年6月、9月。
- “Fair Value Accounting and Income Determination”, *Osaka City University Business Review*, No.10, 1999.
- “‘Relevant’ Indirect Method for Cash Flow Statement: Its Pedagogical and Practical Advantages”(with Yuji Ijiri), *Osaka City University Business Review*, No.11, 2000.

- 「企業金融資産評価と市価法」(翟林喩氏と共著)『財形研究』(The Study of Finance and Economics, 上海財経大学)、第26巻第8期、2000年8月。
- “A Recording System for Cash Flows Reporting: A Requirement for the Primary Financial Statement”
Osaka City University Business Review No.12, 2001.
- “Balance Sheet and Change Sheet: Generalizing the Cash-Flow Direct and Indirect Method to all Balance Sheet Accounts” (with Yuji Ijiri) *Osaka City University Business Review* No.13, 2002.
- “A social science of contemporary value-based accounting: economic foundations of accounting for financial instruments”, *Critical Perspectives on Accounting* 16, 2005.

連載

- 「現代会計を読み解く」『経済セミナー』、第1回～第11回(2007年4月～2008年2月)。
- 「現代会計時評」『週刊経営財務』、第1回～第15回(2009年1月～12月、2010年7月、2012年6月、7月)。
- 「複式簿記のサイエンスを求めて」『税経通信』第1回～第15回(2009年10月～2010年12月)。

研究ノート

- 「R.S. カップラン『上級管理会計』解説(1)(2)」『経営研究』第37巻第2号、第38巻第2号、1986年7月、1987年6月。
- 「婁爾行と中国会計研究の歩み」『経営研究』第49巻第3号、1998年11月。
- 「笠井理論の学説論的意義—有価証券の時価評価と保有損益の論拠を巡って—」『三田商学研究』第42巻第4号、1999年10月。
- 「井尻講演『変遷75年の米国会計基準とその環境』の論点」『経済学論集』第35巻第2号、2003年9月。
- 「会計基準の整合性分析をめぐって」『経済学論集』第42巻第2号、2010年12月。
- 「株式会社社会論の新展開—小栗崇資著『株式会社社会の基本構造』の論点をめぐって—」『経済学論集』第46巻第1号、2014年9月。
- 「慣習、文化、言語、そして会計」『経済学論集』第48巻第1・2・3合併号、2016年12月。
- 「簿記学談義—理論・歴史・教育」『経済学論集』第50巻第2号、2018年12月。
- “A Note on the Decomposition of the Cost of Uncertainty”, 『経営研究』第41巻第5・6号、1991年1月。
- “Stock-Flow Matrix vs. Input-Output Matrix”, *Osaka City University Working Paper* No.9606 (with Yuji Ijiri), 1996.
- “A Requirement of Cash Flows Statement for the Primary Financial Statement”, *Osaka City University Working Paper* No.9707, 1997.
- “Fair Value Accounting and Income Determination”, *Osaka City University Working Paper* No.9801, 1998.

その他

- 「訳者解説:管理会計のコンベンショナル・ウイズダム」監訳『管理会計の回顧と展望』所収、1993年。
- 「会計構造と複式簿記」『会計人コース』1996年6月号。
- 「金融資産、独自の会計必要」(翟林喩氏と共著)『日本経済新聞』2000年12月18日付「経済教室」。
- 「時価会計 政治圧力による凍結に反対」『朝日新聞』2003年5月21日。

- 「円卓討論 会計基準の理論的統合をめざして」(徳賀芳弘、米山正樹、石川純治他)『會計』第161巻第1号、2005年1月。
- 「科学としての会計」「会計と物理と漢詩―井尻雄士先生古稀記念―」(共著、『駒澤大学経済学部研究紀要』第61号)所収、2006年3月。
- 「不正監査 会計士と企業の癒着断てるか」『朝日新聞』2006年3月7日。
- “Seeing auditing for the public service it really is”, The Asahi Shinbun, March 23,2006.
- 「著者 行間を語る」『日経金融新聞』2006年10月24日。
- 「会計学にミレニアム問題はある?」『税経通信』巻頭言、2007年6月号。
- 「スペシャルインタビュー『公正価値会計』とは」『週刊経営財務』2008年11月10日号。
- 「金融危機と会計―会計の進化?―」『税経通信』巻頭言、2009年4月号。
- 「会計と財務の交錯」『税経通信』巻頭言、2010年11月号。
- 「Shyam Sunder 教授に聞く―ベターな会計とは何か―」『週刊経営財務』2011年4月18日号。
- インタビュー「現代簿記論に関する研究」日本簿記学会特別研究課題、2012年9月(インタビューは2012年2月28日、於駒澤大学)。
- 「津守・田中両先生のインタビューに想うこと」会計理論学会特別委員会「会計理論の課題と研究方法―津守常弘・田中章義両先生インタビュー―」『会計理論学会年報No.27別冊』所収、2013年5月。
- 「古典的名著の復刊」日本評論社100周年記念事業「日評アーカイブズ」の「みなさまからの声」所収、2016年7月
- 「井尻雄士先生―異色の存在、その挑戦と足跡―」『企業会計』第69巻第1号、2017年1月。
- 「井尻雄士先生を偲んで―井尻作品のコアにあるもの―」『企業会計』第69巻第9号、2017年9月。
- 「日本簿記学会第34回関東部会記」『日本簿記学会ニュース』No.65, 2018年7月。
- 「会計研究のアンビバレンス―最終講義にかえて―」『経済学論集』第50巻第3号、2019年2月。
- Presentation at Research Seminar Series, School of Accountancy Programme, Queensland University of Technology, Australia, 2000.
- “An Automatic conversion between income statement and cash flow statement: Excel 97 demonstration”, 25 August 2000.
- “A Decomposition of the cost of uncertainty: understanding the relationship between quantity and value of information”, 1 September 2000.

書評

- 井尻雄士『「利速会計」入門』『産業経理』第51巻第1号、1991年4月。
- Robert W.Scapense, *Management Accounting*, Second edition, Macmillan Press, 1991.『経営研究』第42巻2号、1991年7月。
- 岡部孝好『会計報告の理論』『JICPA ジャーナル』第7巻第3号、1995年2月。
- 西村明/ロジャー・ウイレット/ナビール・バイドン編、西村明監訳『アジア太平洋地域の会計』『會計』第149巻第2号、1996年2月。
- 藤田昌也『会計利潤論』『企業会計』第49巻第12号、1997年9月。
- 笠井昭次『会計の論理』『経営研究』第52巻第4号、2002年1月、『會計』第161巻第1号、2002年1月。
- 米山正樹『減損会計』『経営研究』第53巻第2号、2002年7月。
- 磯山友幸『国際会計基準戦争』『経営研究』第53巻第4号、2003年1月。

- 木村剛『竹中プランのすべて』『経済学論集』第35巻第1号、2003年6月。
- G. ウイットントン著／辻山栄子訳『会計測定の基本 インフレーション・アカウンティング』『企業会計』第56巻第4号、2004年4月、『早稲田商学』第400号、2004年9月。
- 渡邊泉『損益計算の進化』『経済学論集』第37巻第1号、2005年8月。
- 斎藤静樹編『詳解「討議資料 財務会計の概念フレームワーク」』『週刊東洋経済』2006年7月22日号。
- 磯山友幸『ブランド王国スイスの秘密』『週刊東洋経済』2006年9月30日号。
- 石橋博史『可視経営で内部統制』『週刊東洋経済』2006年12月2日号。
- 稲葉威雄『会社法の基本を問う』『週刊東洋経済』2006年12月23日号、『経済学論集』第38巻第4号、2007年3月。
- 本庄資『米国マネーロンダリング』『週刊東洋経済』2007年3月17日号。
- 友岡賛『会計の時代だ』『週刊東洋経済』2007年4月17日号。
- 伊藤邦雄『ゼミナール企業価値評価』『週刊東洋経済』2007年7月7日号。
- 米山正樹『会計基準の整合性分析』『週刊経営財務』2009年8月24日号。
- 今福愛志『企業統治の会計学』『週刊経営財務』2010年3月15日号、『会計』第177巻第5号、2010年5月。
- 白石伸一『ドキュメント 会計監査12ヶ月 (Part2)』『週刊経営財務』2010年6月21日号。
- 田中弘『国際会計基準はどこへ行くのか』『週刊経営財務』2010年11月29日号。
- 田中弘『IFRSはこうなる』『経済セミナー』2012年8・9月号。
- 藤田昌也『会計理論のアポリア』『週刊経営財務』2013年7月22日号。
- 藤井秀樹編『国際財務報告の基礎概念』『週刊経営財務』2014年3月17日号。
- 小栗崇資『株式会社会計の基本構造』『週刊経営財務』2014年6月9日号、『会計』第186巻第3号、2014年9月。

講演・セミナー

- 「国際会計基準の動向と中国・日本の会計制度の改革」、上海財経大学(上海学術交流)、1997年4月。
- 「時価会計導入の問題点」、金融税制懇話会講演会、1998年11月。
- 「不確実性のコストの分解について」、経営科学コロキウム、関西経済研究センター、1999年7月。
- 「企業会計のハイブリッド構造」日本銀行金融研究所セミナー、日本銀行、2002年10月。
- 「業績報告書のゆくえを巡ってー企業会計のハイブリッド構造ー」中央青山監査法人研修セミナー、2003年2月。
- 「簿記会計をいかに学ぶかー思考力と志を高めよー」LEC講演(大阪梅田校、東京水道橋本校、福岡校)、2003年3月、6月、9月。
- 「会計研究のアンビバレンスーたかが会計、されど会計ー」慶應義塾大学講演、2004年1月。
- 「年金問題の論点ー年金改革の行方ー」駒澤大学公開講座、2004年5月、6月。
- 「企業会計の今日的変容をどう見るかーその理解と予見ー」第8回全国大会会計人サミット講演、駒澤大学、2004年11月。
- 「『会社とは何か』と会計」「税理士駒澤会」新年研修会、2006年1月。
- 「『会計時評』事始めー社会のなかの会計ー」沖縄国際大学産業総合研究所セミナー、2006年年8月。
- 「批評眼を養うー新会社法・法人税制への批評眼ー」「駒澤会計人会」新年研修会、2007年1月。
- 「簿記会計をいかに学ぶか」専修大学講演、2007年6月。

- 「批評眼の大切さー悪意なき欺瞞ー」京都大学セミナー、2007年5月、大東文化大学セミナー、2008年3月。
- 「金融危機と会計ー会計の進化?ー」駒澤会計人会」新年研修会、2008年1月。
- 「企業会計の変容をどう見るー投資家資本主義と会計ー」大阪経済大学北浜キャンパス・パネルディスカッション、2008年12月。
- 「現代会計の変容をどう見るかーその現代的特性と問題性ー」中央大学大学院ゲスト講義、2010年11月。
- 「IFRS相対化の視点と中小企業会計の意義」甲南大学会計会・大学院講演、2012年8月。
- 「OCIは何処から来るかー実態・リスク開示(B/S)と利益計算(P/L)の矛盾ー」日本大学経済学部「現代会計研究会」、2013年7月。
- 「私が考える教養教育ーリベラルアーツとはー」駒澤大学仏教行事、文化講演会、2014年11月(『文化講演集第18輯』2016年所収)。
- 「財務報告の内包と外延ー統合思考と会計・企業・社会観ー」国際会計研究学会研究会、日本大学経済学部、2015年2月。
- 「会計研究における『理論』とは何かー理論性と制度性ー」京都大学シンポジウム、2016年7月。
- 「現代会計のハイブリッド構造とその矛盾」日本大学大学院特別講義・セミナー、2018年11月。

学会発表

- 「井尻理論における方法と対象」日本会計研究学会第39回全国大会自由論題報告(創価大学)、1980年5月。
- 「データモデル論と会計」日本オペレーションズ・リサーチ学会春期研究発表会(名城大学)、1982年3月。
- 「短期利益計画と間接費の配賦」日本オペレーションズ・リサーチ学会秋期研究発表会(慶應義塾大学)、1982年9月。
- 「真不確実・準不確実における情報の価値」日本オペレーションズ・リサーチ学会秋期研究発表会(東京工業大学)、1985年10月。
- 「機会原価と不確実性のコスト」日本会計研究学会第45回全国大会自由論題報告(横浜国立大学)、1986年7月。
- 「複式計算システムの展開表モデル」日本簿記学会第11回全国大会統一論題報告(慶應義塾大学)、1995年10月。
- 「時価会計の基本問題」会計理論学会第12回全国大会統一論題報告(東京経済大学)、1997年10月。
- 「キャッシュフロー革命と複式簿記」日本簿記学会第13回全国大会統一論題報告(専修大学)、1997年10月。
- 「時価会計と資本利益計算の変容」会計理論学会第16回全国大会統一論題報告(駒澤大学)、2001年10月。
- 「資産化と利子配分」会計理論学会第17回大会自由論題報告(鹿児島大学)、2002年10月。
- 「年金会計と業績報告のハイブリッド構造ーその異種併存性の検討ー」会計理論学会第18回大会自由論題報告(立教大学)、2003年9月。
- 「企業会計の今日的変容と全体整合性問題」日本会計研究学会第63回全国大会統一論題報告(中央大学)、2004年9月。

- 「日本版概念フレームワークの意義と論点」会計理論学会第20回大会統一論題報告(明治大学)、2005年10月。
- 「資金計算書の歴史的展開と数学的展開—その照応関係の一視点—」日本会計史学会第25回大会自由論題報告(駒澤大学)、2006年10月。
- 「現代会計の変容をどう見る—今日の変容の視点—」会計理論学会第24回大会統一論題報告(拓殖大学)、2009年10月。
- 「情報開示、利益計算、包括利益—『その他の包括利益』の出所と現代会計」会計理論学会第28回大会統一論題報告(東京経済大学)、2013年10月。
- 「構造と歴史—会計史研究の一視点—」日本会計史学会第33回大会統一論題報告(立教大学)、2014年10月。
- 「OCI現象と現代会計—その基礎にあるもの—」会計理論学会第30回大会統一論題報告(駒澤大学)、2015年10月。
- 「資産除去債務と減価償却—何が矛盾か、その出所は—」会計理論学会第31回大会自由論題報告(長崎大学)、2016年10月。
- 「簿記とは何であり、何でありうるか—複式簿記の相対化—」日本簿記学会第33回関東部会、特別講演(石巻専修大学)、2017年6月。
- 「3式簿記への招待—複式簿記の相対化—」日本簿記学会第34回関東部会、特別企画「井尻雄士先生を偲んで」(駒澤大学)、2018年6月。

学会

日本オペレーションズ・リサーチ学会(1981年～1990年)、日本会計研究学会(1981年～)、日本簿記学会(1994年～)、会計理論学会(1995年～)、日本会計史学会(2005年～)ほか